

垂水市の日本遺産マップ

01 / 垂水麓



麓とは、郷士（農村に
いる武士）が居住して
いた地域。外城とも呼
ばれる薩摩藩の行政区
画。



05 / 林之城跡、お長屋



垂水島津家の居城、林
之城の跡地。現在も当
時のお長屋が残る。

04 / お殿加神社



垂水島津家初代忠将を
祀った社で、2代以久
が永禄8年(1565)建立。

02 / 垂水人形



江戸時代から伝わる土
人形。人形作りは武士
の内職として行われ、
最盛期には20件の窯元
があったといわれる。

江戸時代から伝わる土人形。人形作りは武士の内職として行われ、最盛期には20件の窯元があったといわれる。

03 / 垂水島津家墓所



島津一門家（加治木、
重富、垂水、今和泉）
のひとつ垂水島津家歴
代の当主と奥方、子ど
もたちの眠る墓地。

島津一門家（加治木、重富、垂水、今和泉）のひとつ垂水島津家歴代の当主と奥方、子どもたちの眠る墓地。

5月20日（月）、垂水市を含む1県9市（鹿児島県、鹿児島市、出水市、薩摩川内市、いちき串木野市、南さつま市、志布志市、南九州市、始良市）で構成する「薩摩の武士が生きた町」武家屋敷群「麓」を歩くと、が県内初の日本遺産に認定されました。今回の認定により、まちの景観や歴史・文化が再認識され、新たな観光資源として交流人口の増加が期待されます。

今後については、垂水市における日本遺産を巡る観光コース等の作成や、表示板等の整備に取り組んでいく予定です。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

日本遺産とは、地域の歴史的魅力を通じて、日本の文化・伝統を語るストーリーのことです。文化財を単に保護するのではなく、地域にある遺産を活用し、発信することで、地域活性化を図ることを目的としています。

認定機関：文化庁 認定数：全国 83 件

←日本遺産ロゴマーク

祝 日本遺産

鹿児島島の「麓」日本遺産に認定

INTERVIEW



垂水市の日本遺産について、
2人の専門家に聞きました。

瀬角 龍平 氏

垂水市文化財保護審議委員会会長。鹿児島県文化財保護指導員



川崎 あさ子 氏

垂水市観光協会観光部長、日本遺産地域代表の垂水市地域プロデューサー代表



Q1 垂水麓の特徴と魅力を教えてください

瀬角 / 垂水麓は、大隅に睨みをきかす防御の要として設置されたことも特徴にあげられます。また、垂水島津家十代貴澄が学問所「文行館」を開設し、近世文学が栄えます。現存する書物等を活用すれば、新たな魅力になると思います。

川崎 / 垂水市には他市のように武家屋敷群等があまり残っていませんが、食文化や言葉使いなど、暮らしの中に当時の「文化」を感じることが出来ます。

Q2 今後の展望等について教えてください

川崎 / 日本遺産は、海外からの観光客も視野に入れた取組です。ニーズを捉え、PRすることが大切です。年中行事や郷土芸能といった日本の文化は魅力的な要素です。垂水麓には、江戸時代から続く本町商店街もあるので、商店街との連携も考えていきたいです。

瀬角 / 海外の方向けには、文化財の看板の多言語表示などが必要になるでしょう。国内外の方々へ、効果的な情報発信の方法を考えていきたいです。

薩摩の武士が生きた町 「武家屋敷群「麓」を歩く」

勇猛果敢な薩摩の武士を育んだ地、鹿児島。本城となる鹿児島城跡や、県内各地の山城跡周辺に配置された「麓」と呼ばれる外城の武家屋敷群が多く残ります。武士達が心身を鍛え、農耕に従事し、平和な世にありながら武芸の鍛錬に励んだ「麓」を歩けば、当時の様子を感ずることができるかもしれません。

垂水市の日本遺産

垂水市には現在当時の様子を伝える武家屋敷等は残っていませんが、当時の建造物であるお長屋や垂水領主であった垂水島津家の墓所等が残っています。また、当時の武士達の生計を支えた垂水人形も、日本遺産を構成する文化財として認定されています。

©社会教育課
文化スポーツ係
☎ 32-7551